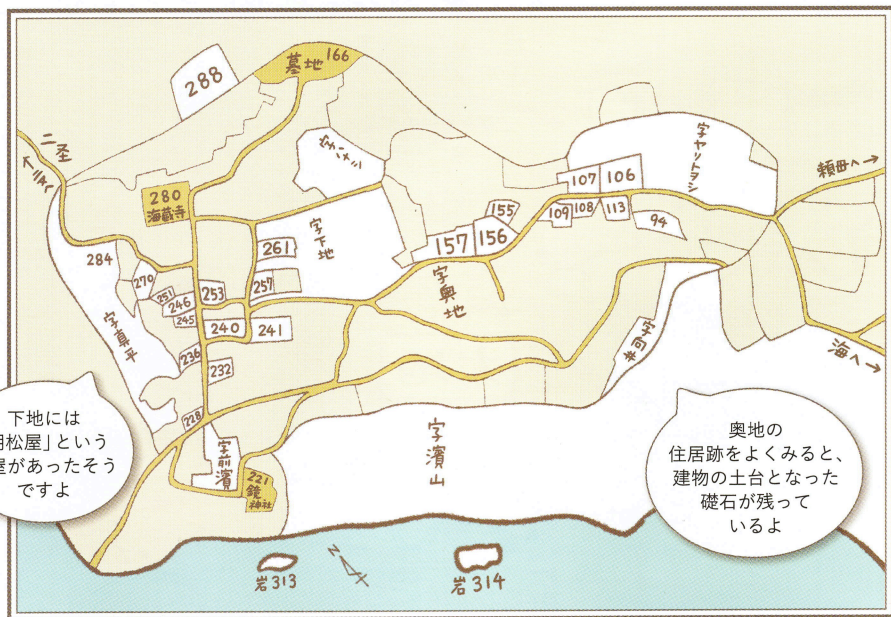


三木崎の集落跡を歩き、在りし日を描く豆知識

人々の築き上げた遺構を記憶する



盛松出身の松夫さんに聞く

猪垣から盛松に入ると、まず広場に出ます。「運動場跡にある丸い石、埋もれて低くなってしまいましたが、飛び箱石です。3年生まで盛松の寺小屋におったんで、そこで運動会もしました。」集落内の谷は浅く、水は貴重品。奥地では屋敷裏側の湧き水を生活に利用し、下地では湧き水を溜めた共同の水槽が頼り。道筋にはあんきょもあります。また、猪垣の周りの溝のような川は「流れ川」と呼ばれ、洗濯場や子どもの水遊び場になっていました。盛松からの移住先には三木浦の**コノハ**の他、尾鷲の松本と**エビレ**も候補だったようです。「盛松の家をばらして使えるものは運び、何年か掛かって屋敷をつくりました。今の**コノハ**に盛松の人はほとんどいなくなりましたね。」

三木崎の漁業



盛松の磯は、左にカナトコの鼻、右奥に見えるのがドマルの鼻で、柱状節理の絶壁が圧巻。「この辺の漁場は大方、盛松の権利でした。西はエビレの先っちょ、ジングさんの鼻から、東は頼母を越えて、早田入口にある青木島まで。三木浦には磯がないからケンカしてね。そこへむいて梶賀が盛松について、一緒にやっとなりたいです。三木崎にある神の島(コノシマ)のところは三木浦と交代で漁をしようとなっていました。」



大切な米と水

水に苦労した盛松の人が、二又峠の奥にある**エビレ**に平地を見つけて田んぼを耕しました。水は豊富でため池ができるぐらい。「盛松の枝郷の頼母にも田んぼはありましたし、牛も飼っていました。畑は盛松の家の横にあって、ほかには塩をつくってました」。

移住後の村の佇まい

住居や畑の跡地は、昭和30年代後半から40年代はじめに植林されました。「食べ物になかった終戦直後は畑をしていましたが、全部スギやヒノキに。戦後14、5年で、いろいろ変わりました」。



廃村遺跡 魅力指数

- 訪問難易度 ★★★★★ (山中に道が残されている、迷わぬように注意は必要)
- 観光地要素 ★★★★★ (木漏れ日の中を歩き、たまに望む海景が最高の癒し)
- 文化的価値 ★★★★★ (屋敷や畑の石垣、炊事場跡など暮らしの営みが残る)